平成１６年度道路環境センサスデータ一覧表

下表は、平成１６年度道路環境センサスとして直轄国道で行った調査結果を調査地点別に表示したものである。
騒音の新環境基準との比較は、全ての調査地点を対象に行っているが、調査地点において環境基準の類型指定がなされていない場合は、超過・非超過の状況を（　）付きで表示した。
表示順位は、都府県支庁指定市別、路線番号別、調査単位区間番号の順で並べた。
「－」は入力データが無いことを示す。

環境基準、要請限度超過・非超過状況
　○　：非超過
　×　：超過
（ ）：環境基準類型指定または騒音規制区域指定の対象外
環境基準：昼間70dB　夜間65dB
要請限度：昼間75dB　夜間70dB
（7～10欄）

車線数は、併設道路を含む。（13欄）
環境基準類型、騒音規制区域の指定状況は、
　○　：指定有り
　空白：指定無し　とした。（14～15欄）

環境基準の類型指定延長は、上下車線別に求め、その合計を２で除した。（18欄）
環境対策設置延長は、上下車線別に設置された延長の合計となっている。（24～29欄）
遮音壁高さ（30欄）は測定地点における値のため、設置延長の有無にかかわらず「－」と表記される区間もある。

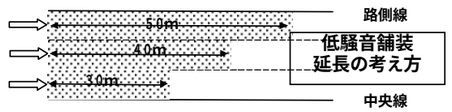
舗装種別は以下に示すとおり（23欄）
　密粒As　：密粒アスファルト
　排水性As：排水性アスファルト
　その他As：その他のアスファルト
　ｺﾝｸﾘｰﾄ　：コンクリート
　その他　：その他

沿道建物の状況は以下のとおり（39～40欄）
　両側　：両側に建物がある
　測定側：測定側のみ建物がある
　反対側：測定点の反対側のみ建物がある
　無　　：両側とも建物がない
　不明　：不明

調査種別番号（41欄）は以下のとおり
　1：平成16年度実測
　5：前年度データを補完

対策予定記載方法

環境施設対設置延長（25～29欄）は以下のとおり記載する。
　環境施設帯：小数点以下２桁を四捨五入
　遮音壁　　：小数点以下２桁を四捨五入
　　種別　　：通常の場合は入力不要。新型遮音壁の場合は、できるだけ詳しく種別を入力。「新型遮音壁」は不可。（例）ASE遮音壁
　　高さ　　：四捨五入により整数とする。
　高架裏面吸音板：小数点以下２桁を四捨五入
　低騒音舗装：延長の考え方は右図参照。少数２桁を四捨五入
　低層遮音壁：小数点以下２桁を四捨五入
　その他　　：小数点以下２桁を四捨五入



低騒音舗装延長の考え方

$$延長 = \frac{延べ延長}{車線数} = \frac{50+40+30}{3} = 40m$$

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
事務所コード	路線名	地点名	No.			環境基準超過・非超過		要請限度超過・非超過		騒音レベル(dB)		車線数	測定地点の指定状況		測定位置情報	区間延長(km)	環境基準の類型指定延長(km)	評価延長(km)	沿道状況	道路条件			環境対策設置延長(km) 現況　H16調査時　[片側換算]						遮音壁高さ(m)	評価対象地域内環境対策設置延長(km) 現況　H16調査時　[片側換算]						併設道路		沿道建物		測定データ	
			都道府県支庁指定市コード	調査単位区間番号	区間内番号	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間Leq	夜間Leq		環境基準類型	騒音規制区域	測定点側の車道中央との距離(m)					道路敷幅(m)	道路形態	舗装種別	環境施設帯	遮音壁	高架裏面吸音板	低騒音舗装	新型遮音壁	低層遮音壁		環境施設帯	遮音壁	高架裏面吸音板	低騒音舗装	新型遮音壁	低層遮音壁	併設道路の有無	道路形態	測定点背後反射物の有無	沿道建物の状況	調査種別番号	実測調査年度
03	一般国道１７号	群馬県高崎市下和田町3丁目11	10000	1002	3	○	×	○	○	69	66	4	○	○	9.4	0.2	0.20	0.20	DID	23	堀割	排水性As	0	0	0	0.2	0	0	-	0	0	0	0.2	0	0	無	-	無	無	1	2004